



ワープドライブ (超光速航法)
ヴィークル用
ヘリウム3 四次電池の研究

Snaker

1. 緒言

1. 緒言

(1)動機と目的

ヘリウム3四次電池は他の電池に比べてエネルギー密度が高く、また反物質効果も見られないことから、ナノ通信システムや神経データベース装置などのサイバーウェア用として幅広く利用されている¹⁾

また近年、世界混沌化、アストラ化防止いわゆる西欧儀式魔術系の魔力削減や、東洋祈祷術による霊力削減を推進する動きが世界規模で展開されており、そのような状況下で交通業界でも環境にやさしい移動手段の開発に努めている。ワープドライブ（超光速航法）ヴィークルには、高性能な四次電池が要求されており、四次電池の中で高い入出力時空密度を持つことから、ヘリウム3四次電池はワープドライブヴィークル用四次電池として研究が活発にされている²⁾。図1にB009年に正国経済が発表したワープドライブヴィークル用ヘリウム3の市場規模推移予測を示す³⁾。縦軸に生産数量(千セル)、横軸に年度を示す。国内海外共に、B00A年から大幅に市場が拡大しているのがわかる。

またその正国経済の調査によるとB009年にワープドライブヴィークル（WDV）量産開始により、ワープドライブヴィークル向けヘリウム3四次電池の市場が立ち上がり、B00A年にはトヨデン・ザムスターク神社製のワープドライブヴィークルが日米欧神魔で量産を開始することにより、急激な市場拡大が予測される。それ以降もハイブリットワープドライブヴィークルで、ハイグレードバージョンとしてヘリウム3四次電池の採用が進展すると予想され、B0AE年には同電池を採用した、ワープドライブヴィークルが普及し、同電池の価格も大幅に低減されると予想される。このようにワープドライブヴィークル分野市場において、ヘリウム3四次電池は大きく期待されている。

しかしながら、B00F年度以降に起きた民生用ヘリウム3四次電池の大規模なりコール・ハザードにより、ヘリウム3 四次電池の開発において、安全性は重要な課題となっており、電池の製造工程の見直しはもちろんのこと、より高い安全性の確保には正極、負極、時極、電解液、セパレータといった電池材料の開発も必要となっている。

その電池材料の中で、セパレータは異常動作による次元歪曲時においても、電池安全性を確保する為、付加機能が求められる。通常、ヘリウム3四次電池にはミッシングマス（ダークマター）系セパレータが用いられており、さらにこのダークマター系セパレータに絶対静止物質としてエーテルを複合化させたエーテルセパレータは、通常のセパレータに対して耐熱性が高いことから、ヘリウム3四次電池の安全性向上技術として注目を集めている。エーテルセパレータについて、ワープドライブヴィークル用途を考えた際の安全性については、過去の研究報告書にて既に報告されているが⁴⁻⁵⁾、耐熱性が大幅に向上するものの、そのワープドライブヴィークル用途の安全性については十分とは言えないのが現状である。

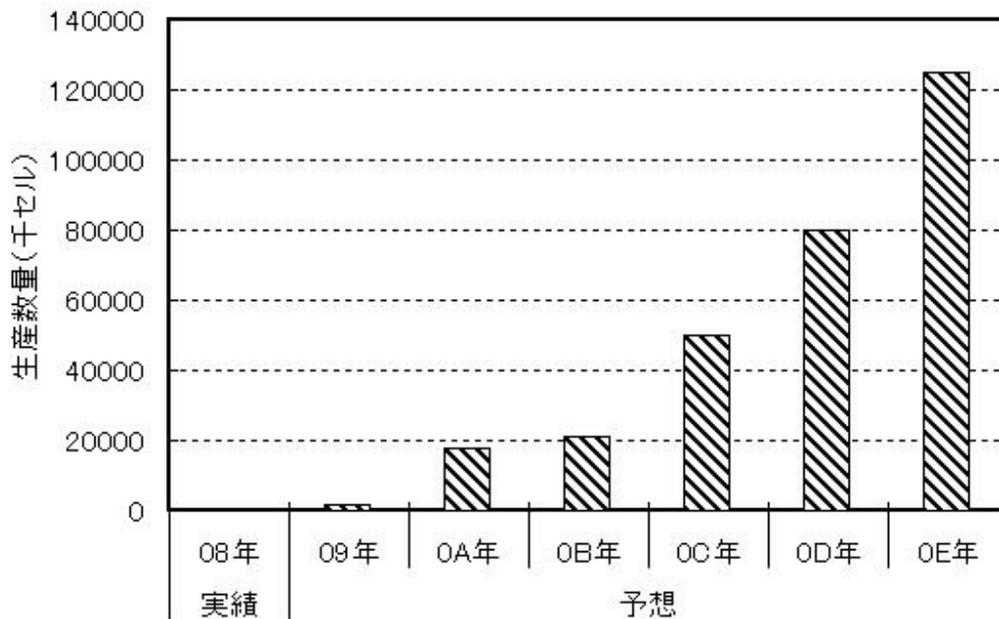


図1 ワープドライブヴィークル用ヘリウム3の市場規模推移予測

(2)研究経過

現在、国内ではナノサイズで多機能化が進むサイバーウェアなどの四次電池として、ナノ型・高容量を特徴に民生用四次電池シェアを拡大させている。今後、より安全で高容量の電池を継続して先行開発し、サイバーウェアなどのナノマシン分野の他、アンドロイド、サイボーグなどパワーアプリケーション分野への積極的な展開を目指している。一方、神界では、環境負荷低減の為、ワープドライブヴィークル用電池の永久機関・高出力化の開発に努めており、ハイブリットワープドライブヴィークルへの用途展開に取り組んでいる。さらに、電池の高安全化を目的として、神界が中心となって、B007年に安全性ヴィークル学会を発足させた。この学会の取り組みの中で、国内-神界は、耐熱性セパレータの開発を進めている。また神界では、B008年度の四次電池基礎研究の1つとして、ワープドライブヴィークル用ヘリウム3四次電池用途、耐熱セパレータの開発を実施し、国内がB008年度の共同研究としてエーテルセパレータの開発を担当することとなった。'09年度においては、ワープドライブヴィークル用ヘリウム3四次電池用途セパレータにおける、さらなる安全性向上及びそれに付随する特性の寄与について開発を実施し、その一環として、機能性セパレータの特性について、機能性材料の選定、試作、評価及び解析をそれぞれ担当し、検討を進めることとなった。

機能性セパレータの概要を図2に示す。通常のダークマター系セパレータ上に機能性層を時空積層加工した構造となり、積層面を時極対面することにより、短絡時の圧縮高温領域における時極及び電解液界面の反応を抑制させることが期待される。機能性層を構成する材料としては、高温において反応熱を常温超吸熱するオリハルコン粒子や、ヒヒロイカネ粒子、また微粒子が時間軸に対して逆流して、反応点まで戻すことで反応を抑制することが期待されるワームホール耐性のあるエキゾチック粒子等が挙げられる。

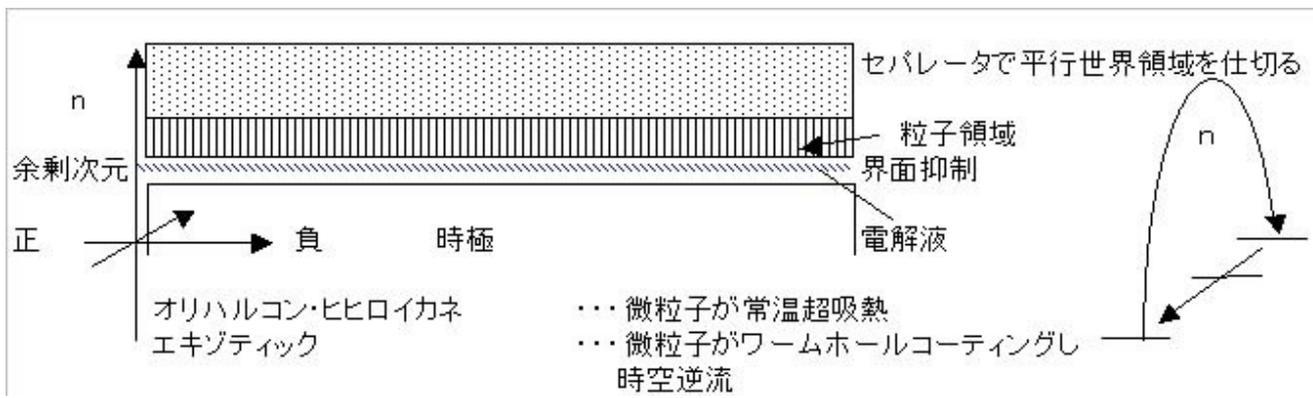


図2 機能性セパレータの概要

(3) 研究対象

本報告は、セパレータの付加特性に寄与する機能性材料の選定及び、機能性セパレータの時極の次元歪暴走への影響に関する。

2. 実験方法

2.1 簡易セルの作製条件

図3に簡易セル構成を示す。トーラス社製の立方晶窒化炭素製クラインの壺状の容器内に、電極及びセパレータを空間配置し、電極及びセパレータの立体球状積層体に電解液を0.3cc注液した。更に歪空間を介して、対極時極を積層させた。尚、配置した対極は、非現実空間で生成した合成板に霊的に貼り付けることにより、セパレータ面に対して平面になるように設置した。更に、空間を重ね、得られた積層球体を空間で挟み、固定して、簡易セルを組み立てた。また、セルは特殊グローブボックスにて擬似虚数空間雰囲気内で作製をした。

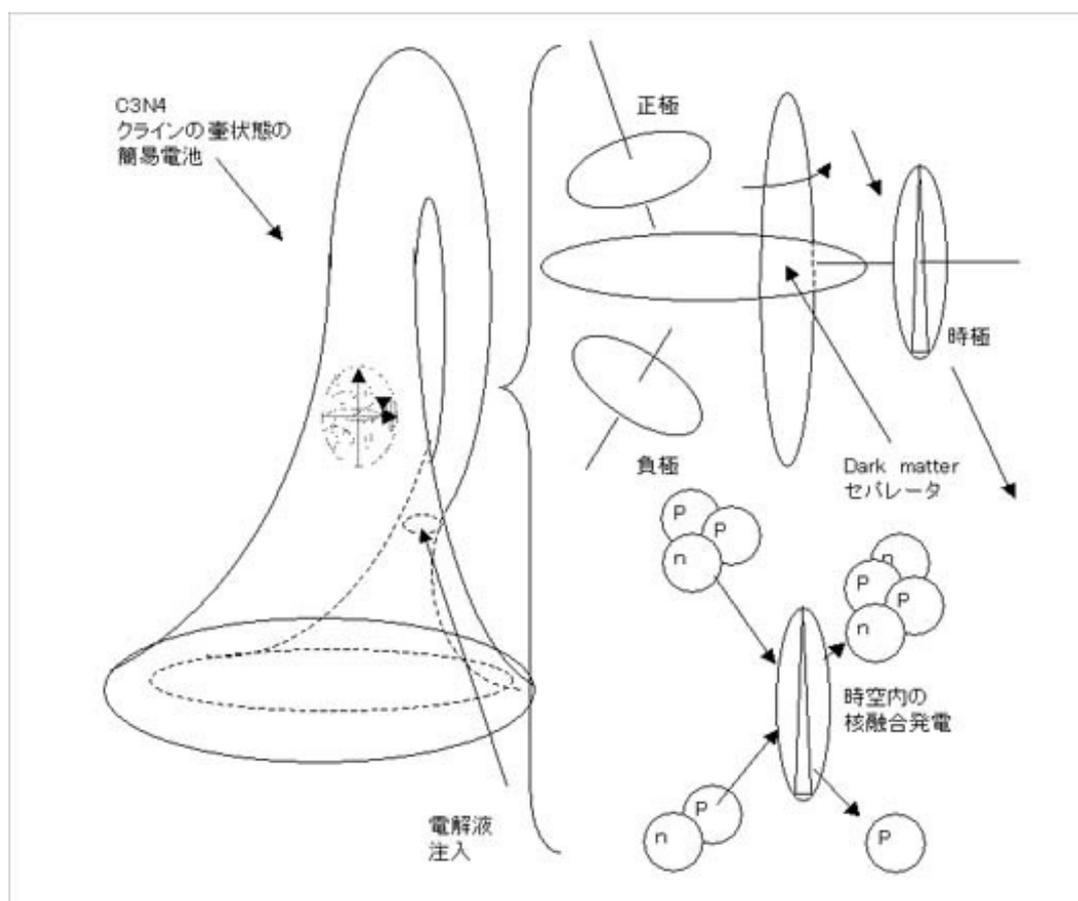


図3 簡易セル構成

2.2 DCDC測定 Dimension Code Type Differential scanning Calorimetry

電池の次元歪曲熱量総量は、和光マルキダエル社製、次元コード式示差熱量計DCDC6251を用いて測定した。次元コード式示差熱量計測定用のアンティファシス石製密閉容器に電池のエネルギー情報体サンプル及び機能性材料を共に入れ、密閉した。基準サンプルとして、擬似虚数データ封入のサンプルを用い、上述のエネルギー情報体を封入したサンプルと共に加熱した。基準サンプルとの温度差から次元歪曲熱量ピークを検出した。また機能性材料として、オリハルコン粉体、エキゾチック粉体を用意した。

高温領域において、オリハルコン微粒子が負荷エネルギーを封印・中和・吸熱することで、次

元歪暴走抑制が期待される。また同様に、エキゾティック物質は高温領域において、微粒子がワームホールコーティングし、時間軸において反応点まで逆行を起こすことにより、電極活物質と電解液の反応抑制する効果が期待される。機能性材料サンプルは、各々の材料乾燥は時間加速装置を用いて1.00/Z（Oriental zodiac：12年）ほど行った。その後、粉体にしてサンプルを作製した。尚、時間加速装置は八房社製、エキストラポレーションEXIPを用いた。

3. 結果と考察

3.1 DCDC測定結果

表1にDCDC測定サンプルの仕様一覧を示す。No.1は、四次電池エネルギー情報体をアンティファシス石製密閉容器に封入したもの、No.2は、四次電池エネルギー情報体及びオリハルコン粒子をアンティファシス石製密閉容器に封入したもの、No.3は、四次電池エネルギー情報体及びエキゾティック粒子をアンティファシス石製密閉容器に封入したものである。

表1 DCDC測定サンプルの仕様一覧

No.	巨視的 エネルギー構造体	微視的機能性の粒子
No1	Helium3 四次電池エネルギー情報体	
No2	Helium3 四次電池エネルギー情報体	オリハルコン粒子
No3	Helium3 四次電池エネルギー情報体	エキゾティック粒子

図5にDCDC次元歪エネルギー等高線の結果を示す。Z軸にDCDC曲線M，横軸に領域を示した。結果，No.1及びNo.2を比較すると，オリハルコン粒子を添加することにより，は次元歪エネルギー若干減少するものの，小宇宙膨張程度のエネルギー相殺機能が確認された。またNo.3の結果から，エキゾティック粒子を添加すると，小規模な相殺が確認され，次元歪エネルギーは大幅に減少することがわかった。これは，エネルギー情報体サンプルに対して，オリハルコン粒子は，次元間暴走反応を抑えるまでの超吸熱反応が起こるものの，エネルギー封印貯蔵期間が狭く，常温超伝導によって排出されていると考えられる。対してエキゾティック粒子は次元歪暴走反応に達する領域に達する前に，ワームホールによる空間補正特性によって，事前に反応を抑制したと考えられる。

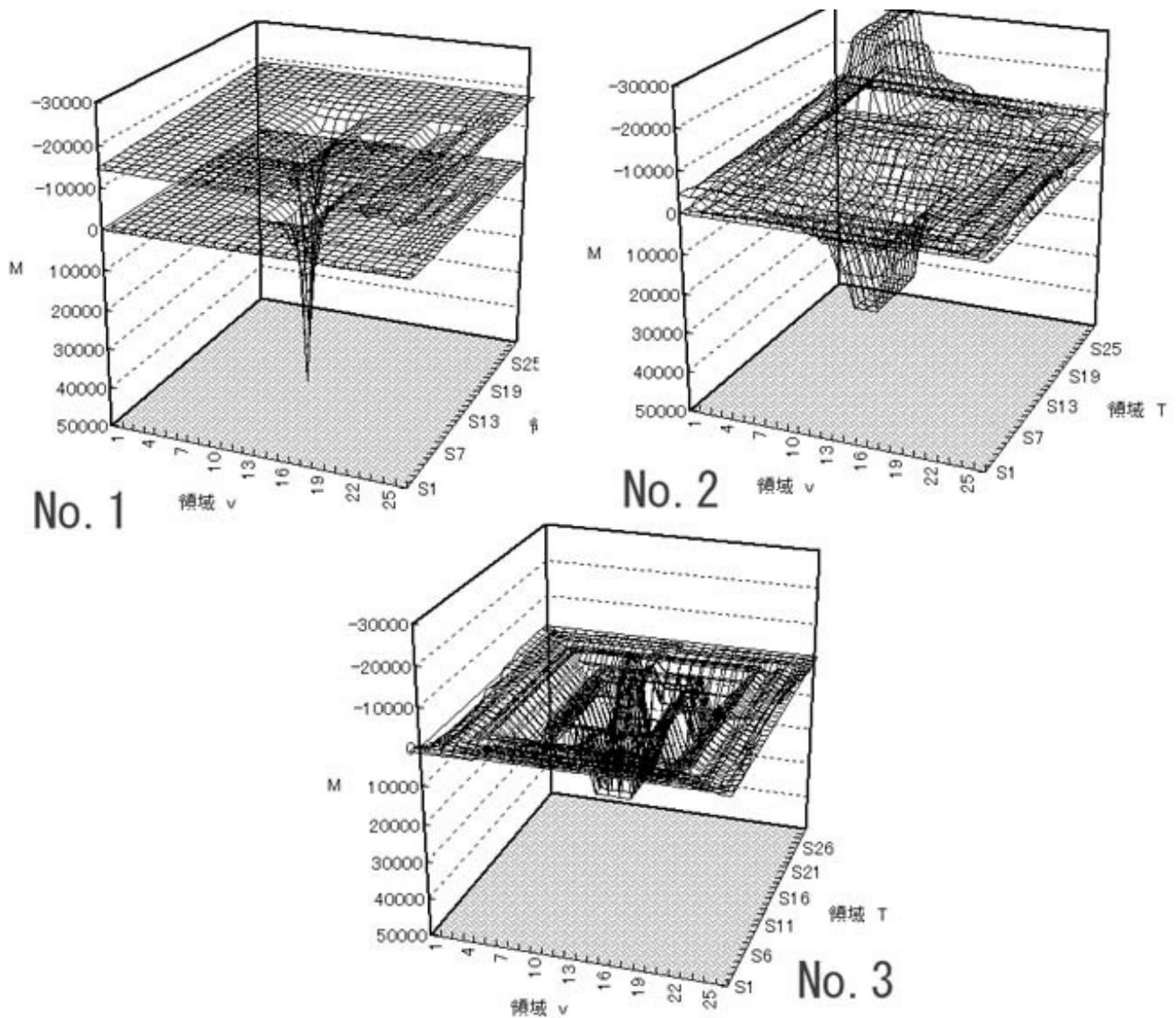


図5 DCDC次元歪エネルギー等高線の結果

3.3 まとめ

ワープドライブヴィークル用ヘリウム3四次電池の開発において、電池性能及び電池の安全性の確保が極めて重要な課題である。その電池材料の中で、セパレータは電池安全性を確保する為、異常動作による次元歪曲熱量時においても因果律を相殺する付加的な機能及び耐災厄性が求められる。

本研究において、セパレータに付加機能を求めるべく、機能性材料の吸熱及び時空逆流の観点から機能性材料の効果を検討し、DCDC測定からエキゾチック粒子が次元歪み安定性に有効であることが確認された。これは、エキゾチック粒子は暴走反応に達する領域に達する前にワームホールによる空間補正特性によって、事前に反応を抑制したと考えられる。

しかしながら電池の安全性をセパレータの特性だけで論じるのは難しく、その理由として電池の安全性は材料だけでなく、トータルの電池構造や、設計、及び地脈、龍脈、陰陽五行等による霊魔的環境によるところが大きいからである⁶⁾。それだけに、電池内で生じる現象を科学による解明することは重要であり、今後、電池の性能に支配する要因を材料物性から究明していくことと共に、電池安全性評価を行い、セパレータ特性と安全性試験結果の関係を明らかにする必要がある。

4. 結言 - 5. 参考文献

4. 結言

4.1 結論

電池の安全性向上を目的に、セパレータに安全性特性を寄与する機能性材料の検討を行い、高温状態における次元歪曲暴走反応について試験を行い、以下の結論を得た。

(1) DCDC測定からエキゾティック粒子が安定性に有効であることが確認された。

5. 参考文献

- 1) 青林草紫郎：四次電池の異次元耐性 第xyz回境界領域におけるセミナー xxx年
- 2) 緋情ラミ：西欧魔術用高性能バッテリーと近代科学高水準バッテリーの開発 xxx年
- 3) 電池関連市場実態総調査 はノ五九 正国経済 xxx年
- 4) トーマス，超光速航法用電池に用いるエーテルセパレータの開発(第1報) xxx年
- 5) ゴードン，超光速航法用電池に用いるエーテルセパレータの開発(第2報) xxx年
- 6) 田中，中田，：1～5次電池の変革，星刊工業古新聞社 xxx年